

埋伏歯の臨床

名古屋矯正歯科診療所 佐奈正敏

日常臨床においては、色々な場面で埋伏歯の問題に遭遇します。これらは萌出困難、萌出障害といった病態から、保存不可能な第二大臼歯部への埋伏智歯の誘導など様々な状況があり、その原因は歯胚の位置異常やスペース不足など症例によって異なります。したがって、例えば同じ上顎犬歯の萌出障害といってもその治療方針、方法は画一的ではありません。そして、矯正治療のなかで埋伏歯の問題に対峙する時、患者の成長発育段階を考慮しなければなりません。成長期においては、正常な永久歯交換と望ましい顎発育を達成する目的の一環として、埋伏歯に対して、適切な時期に最善の方法が選択されるべきであり、成長終了時には審美性を含めた個性正常咬合の達成のために、埋伏歯をどのように扱っていくべきかを診断した上で治療に望む必要があります。すなわち、成長期治療と永久歯治療では埋伏歯に対する考え方が異なるといえます。さらにいずれの状況においても牽引を行う場合には、治療が功を奏しなかった場合の方針を事前にたてておく必要があります。

本日は、“子供の歯が抜けたのに大人の歯がなかなかはえてきません”といった日常よく遭遇する問題への対応から、開窓牽引が功を奏しなかった症例まで、これまで経験してきた症例をまじえて埋伏歯に関するこれらの諸問題について考察したいと思います。皆様の臨床に少しでも役立てば幸いです。

平成3年 愛知学院大学歯学部卒業、歯学博士

愛知学院大学歯学部歯科矯正学講座非常勤講師

日本矯正歯科学会、日本成人矯正歯科学会 専門医

WBLO, ESLO, JLOA 認定医